

事業計画書

令和2年度

(基本方針・目標)

総括	理事長	中尾 博
大阪総合保育大学大学院	学長	大方 美香
大阪総合保育大学	学長	大方 美香
大阪城南女子短期大学	学長	西川 仁志
城南学園高等学校	校長	北川 真
城南学園中学校	校長	北川 真
城南学園小学校	校長	山北 浩之
城南学園幼稚園	園長	太田 友子
城南学園保育園	園長	川原 啓子

学校法人 城南学園

I. 総括

昨年度より幼稚園から大学まで全段階の学校が減少期に入った。平成 28 年以降の出生数が 100 万人を割り、今後も 80 万人に向けて低下することが確実視されており、学生・生徒獲得の学校間競争はますます激化すると考えられる。

また、新型コロナウイルス感染による休校措置も継続中であり、学生生徒及び教職員の安心安全を十二分に確保しつつ、感染状況や国及び自治体の対策等を見極めながら、授業再開に向けた準備等にも傾注する必要がある。

収入増加が期待できない状況の中、各学校は中期計画を確実に実行しなければならない。

前期に引き続き、次の 5 つの課題を実行する。

1. 新型コロナウイルス感染症対策を推進し、安心安全を確保すること。
2. 募集活動の充実強化により、入学定員を確保すること。
3. 各学校の教育内容を再点検して、目標を明確にすること。
但し、建学の精神を最重視すること
4. 全学、“幼児教育・福祉の城南”路線を徹底的に推進すること。
5. “入るを量りて出ざるを制する”の原則どおり、支出を削減すること。
特に人員の効率化と物品購入の節減に留意すること。

以上を愚直に地道に徹底的に実行すること。

今年度の施設・設備工事は極力抑えるものとするが、実施する主要工事は次のとおりである。

- (1) 中高空手道場建設
- (2) 小学校プログラミング用タブレットシステム導入
- (3) 大学 C 学舎 AV・ネットワークシステム及び坂上ホール AV システム更新

II. 大阪総合保育大学大学院

1. 基本方針

- (1) 建学の精神「自主自律」「清和気品」「敬天愛人」にのっとり、「修了の認定および学位の授与に関する方針」「教育課程の編成および実施に関する方針」並びに「入学者の受入れに関する方針」（「三つの方針」）に沿った教育及び研究をめざす。
- (2) 建学の精神「自主自律」「清和気品」「敬天愛人」に基づく高度な専門的職業能力を備えた保育者・教育者並びに研究者を養成する本学大学院の社会的使命に基づき、教育・研究のより一層の質的充実と柔軟で多様な指導・支援体制の構築をめざす。
- (3) 社会的使命に基づいた教育と研究の両輪という観点から、保育・教育現場の実践に役立つ教育及び研究をめざす。
- (4) 専門性に裏打ちされた保育実践指導力を備えたリーダーを養成するため、「保育実践コーディネーター」養成コースの新設をめざす。
- (5) 博士学位請求論文を提出し、博士(教育学)の学位を取得できる学生の育成のため、質の高い研究指導をめざす。
- (6) 日本高等教育評価機構による認証評価の結果を振り返り、自己点検評価を継続的に積み重ね一層の質向上をめざす。

2. 今年度の目標

(1) 柔軟で多様な指導・支援体制の構築

- ① 院生各自の課題意識と研究意欲を尊重し、院生一人一人に合致した研究計画及び将来設計を全面的に支援できるように、学修・研究環境の整備を図る。
- ② 指導教員制と研究指導の充実—博士前期課程及び博士後期課程において、各研究領域担当の教授陣が指導教員(正と副の2名)となり、グループまたは個人面接によって修士論文及び博士学位請求論文の作成を丁寧に指導する。新しい教員を含めた体制構築を図る。
- ③ 多様な指導・支援体制の整備—院生の多様な目的・ニーズ、学修形態に配慮した履修・開講方式(例えば、土日開講、夜間開講等)を用意し、生涯教育の継続・発展を図る。

(2) 院生の教育・研究活動の奨励

- ① 全国及び地方学会で口頭発表したり、学術論文を掲載したりした院生に対して授与する「学術奨励賞」の受賞者のさらなる増加のため、指導の充実を図る。
- ② 博士後期課程学生の教授能力を一層向上させるため、その専門性を活かせる科目の本学非常勤講師及び特任教授の充実を図る。
- ③ 院生をティーチング・アシスタントとして採用し、修学上の支援の充実を図り、教育を担う者としての自覚や意識の涵養と学生に対する教育方法等の在り方を学ぶ機会提供を図る。

III. 大阪総合保育大学

1. 基本方針

- (1) 建学の精神「自主自律」「清和気品」「敬天愛人」にのっとり、「卒業の認定および学位の授与に関する方針」「教育課程の編成および実施に関する方針」並びに「入学者の受入れに関する方針」(「三つの方針」)に沿った教育及び研究をめざす。
- (2) 新しく「乳児保育学科」が開設され、新学舎の合理的活用、各部署の体制強化、教職員の人員強化、カリキュラムの構築等をめざす。
- (3) 認定こども園、小規模保育所等3歳未満への保育需要が増加等といった社会的状況に鑑み、乳児保育学科設置を契機とし、保育学の構築をめざす。
- (4) 日本高等教育評価機構による認証評価の結果を振り返りながら、自己点検評価を継続的に積み重ね、資質・能力の向上をめざす。
- (5) 幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許に関する再課程申請の結果を振り返りながら、新養成課程に沿った教員養成課程の質の向上をめざす。
- (6) 大学入学者1,000名をめざし、新しい時代に向けた大学の進むべき方向性を検討するとともに、新時代の保育士養成・教員養成カリキュラムの構築等をめざす。

2. 今年度の目標

(1) 本学の教育研究の質的向上

- ① 建学の精神に基づいた本学の人材養成の目標の確立を図る。
- ② 大学入試改革に即した入試日程の確立、入学試験の多様化と広報活動の強化を行い、受験者数の増加及び入学者の確保を図る。

- ③ 高大連携、なかでも城南学園高校との連携、さらには大阪城南女子短大編入学生の連携促進を図る。
- (2) 教育課程及び教育方法の改善
 - ① 初年次教育の充実による学生の学力及び学習意欲の向上を図る。
 - ② 学生支援の充実による経済的支援、丁寧な履修ガイダンス、行き届いた進路・就職相談等を行い、「就職に強い大学」という実績の継続を図る。
 - ③ 教員の教育・研究を通じた専門的力量的向上を図る。
- (3) 地域・社会への貢献
 - ① 質の高い、行き届いた教育研究活動を通して、高い教養と総合的保育力・教育力をもった保育者・教育者の輩出を図る。
 - ② 社会人の特別選抜や科目等履修生の受け入れによるリカレント教育の実施を図る。
 - ③ 総合保育研究所による記念講演会や公開講座の実施、子ども総合保育センター等による子育て支援・相談活動の実施等、地域の取組等、地域の保育・教育関係者や地域住民への生涯学習の機会の提供を図る。
 - ④ 地域における幼児教育の質向上に向けた地域連携の推進（上申講習等）を図る。

IV. 大阪城南女子短期大学

1. 基本方針

本学は、建学の精神「自主自律」「清和気品」の二訓のもとに、豊かな人間性と専門性を兼ね備えた社会の第一線で活躍できる女性を育てることを使命として、以下の基本方針に基づき人材の養成・育成を行います。そして、これらの方針に基づいて設定された教育課程を修め、基準となる科目・単位数を修得した学生に学位（短期大学士）を授与します。

- (1) 自律した個人として主体的に行動するために必要な総合的な教養・常識、社会性、対人関係構築力を備えるとともに、多様な資格取得等による専門的知識・技能を身につけている。
- (2) 身につけた知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等、確かな実践力を養っている。
- (3) 学習した成果を自ら点検・評価できる自修力と自立した芯の強さと穏やかさ、多様な人々と協働して学ぶ態度や人のことを思いやる優しさを備えている。
- (4) 各学科では、上記1・2・3にあわせて次のような人材養成・育成をめざします。
 - ① 現代生活学科では、豊かな教養と生涯にわたって学び続ける力をもち、さまざまな課題に自ら対処できる力を備えた人材を育成します。そのうえで、調理・製菓の現場が期待する専門的知識・技能を有する人材、およびビジネス現場における情報活用力と実践的な表現力・対応力を身につけた人材を育成します。
 - ② 総合保育学科では、教育・保育・福祉の現場に通用する実践力のある人材養成を目指します。具体的には以下の力を身につけることを求めています。「現場に即した専門知識・技能」「自分の持ち味を十分に発揮できる自己表現力」「他者との協働・連携が求められるようなチームワーク力」「課題解決へ向けて自ら働きかける実行力と判断力」
 - ③ 人間福祉学科では、ホスピタリティ精神を醸成し、様々な科学に依拠した介護の知識

や技術力を修得する。そして、尊厳を守るための『人間力』、人や暮らしを支える『福祉力』を兼ね備えた介護福祉士に育成していく。とりわけ、対人援助、行動実践、自己表現・自己管理に関して応用的な能力があり、且つリーダーを目指せる資質のある『介護女子』を育てていく。

2. 今年度の目標

(1) 「一步先いく それが城南」

- ① 成長実感が湧く学校（学びの実感と進路実現）
- ② 面倒見の良い学校（教職協働による学生支援・新型コロナウイルス緊急対策）
- ③ 新学科体制への円滑な移行

(2) 具体的計画

① 学生満足度の向上（教育内容・環境・進路）

i. 教員の資質・授業力向上・授業改善

- ・授業改善委員会による改善指導
- ・FD・SD 合同委員会の設置・研修充実
- ・教員の教育・研究の活動支援と自己目標管理（学長による年2回面談）
- ・科研費等外部資金の獲得

ii. 組織的カリキュラムマネジメント

- ・DP・CA に添った系統的な学びと評価
- ・カリキュラムマップによる学びと教えるの系統化
- ・学習（修）成果の点検・評価
- ・卒業生全員に責任を持つ進路支援

iii. 地域と共に生きる短大（学びと体験の融合）

- ・地域・企業等との一層の連携・交流と学生の主体的活動の積極的な奨励

iv. 学生支援

- ・退学防止、一人暮らしの学生支援、教育相談の充実
- ・スクールハラスメントの防止（スクールハラスメント防止対策委員会）
- ・「障がいの有る学生」への学習支援
- ・キャリア・実習室を軸とする公務員志望者への受験支援
- ・奨学金センターによる無償化対応（奨学金・授業料減免）

② 募集活動の強化

i. 入学定員確保（総合保育学科160名 現代生活学科80名）

- ・新学科体制の広報活動の徹底
- ・学内広報・学外広報の充実、オープンキャンパスの更なる充実
- ・城南学園高校・総合保育大、教育連携校との連携充実
- ・外部受験生の掘り起こし

③ 学びの可視化

i. カリキュラムマップによる組織的・系統的学びの徹底

ii. インターンシップを全学的取り組みとする

iii. 学生に学習実感・学習成果の見える評価法の研究開発

④ 組織の活性化・危機管理・改革改善

i. 組織の活性化・危機管理

- ・危機管理委員会を軸とする新型コロナウイルス対策
- ・SD規程の整備、教職協働による校務遂行の徹底
- ・新たな教育・学習環境整備（Web 授業など）
- ・業務の効率化を図るための業務のIT化
- ・教職員・学生の安全・衛生の確保

ii. 改革改善

- ・令和3年度新学科体制への円滑な移行

v. 城南学園高等学校

1. 基本方針

- (1) 将来、一人ひとりの社会的使命が果たせる生徒の育成を図る。そのため、各コースの特性を生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
- (2) 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため、「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
- (3) 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
- (4) 全教職員で広報・募集活動を推進し、定員の充足をめざす。

2. 目標

<教育研究活動>

(1) 学校の全体像に関わって

- ① 10年先を見通した学校の将来像について検討する。
- ② 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- ③ 国のガイドライン等を踏まえ部活動の活動方針を策定する。
- ④ 学校における働き方改革等に対応するため、変形労働時間制の導入について検討する。
- ⑤ 各種会議を研修の場として積極的に活用する。

(2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ① 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。また、新学習指導要領の研究とその具体化について検討する。
- ② 新大学入試制度に対応した授業を推進し、入試問題の研究を進める。また、英語教育の改善・充実に努める。
- ③ 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。

- ④ 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。その一環としてeラーニングを積極的に活用する。
 - ⑤ 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底
- ① 朝の読書活動の一層の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。
 - ② 年間重点目標を掲げて全教職員で指導するとともに、生徒自治会等の取り組みを促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。
 - ③ 学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。
- (4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上
- ① 各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
 - ② すべての教育活動を通じて人権に関する教育を一層充実する。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談を通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
 - ③ 保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。

<募集活動>

- ① 特進系コース 100 名、幼児教育・福祉コース 100 名、進学スタンダードコース 80 名の入学者を確保し、定員 280 名の充足をめざす。
- ② 各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みについて検討する。
- ③ 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員による広報活動を一層推進する。また、広報活動への生徒の参画を促進する。

<進路実現>

- ① 進路実現 100%をめざす。
- ② 国公立大学と関関同立の合格者 15 名（実数）以上、総合保育大学への進学者 5 名以上、城南短大への進学者 80 名以上をめざす。また、看護特進コース生徒の希望進路の実現に努める。

VI. 城南学園中学校

1. 基本方針

「気品ある進学校をめざす」という基本方針のもと、一人ひとりを大切にし、6年先の進学

実績向上を目標に生徒の学力アップを図る。

学習面においては基礎の反復を徹底し、習熟度別指導及び個別指導で上位から下位まで漏れなく指導をする。また、理系に興味を持たせるような働きかけをする。

同時に、規則正しい生活習慣の確立、気品あるマナーを土台とした人間力の育成をめざす。

2. 目標

<教育研究活動>

(1) 学力養成プログラム

- ① 反復学習を通じて、基礎・基本の徹底に努める。
- ② 習熟度別授業、個別指導、放課後学習会を利用し、生徒の学力に応じた対応をする。
- ③ 近畿大学などの研究機関の協力を得て、理系教育を推進する。
- ④ 読書指導を充実させ、読解力だけではなく、表現力も身につける指導を行う。
- ⑤ 新聞を活用した教育（N I E）を実施し、思考力・判断力・表現力を身につける。

(2) 人間力養成プログラム

- ① ビジネス手帳の活用を通して基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ② 特別講座で外部講師を招き、知識・興味の範囲拡張を図る。
- ③ 職場体験・企業見学を実施し、職業観を養う。
- ④ 学習成果発表の場として、総合学習発表会を実施する。

(3) 新学習指導要領

- ① 令和3年度より本格実施となる新学習指導要領の研究と具体化を進める。
- ② 「総合的な学習の時間」のあり方を検討する。

<募集活動>

- ① 募集定員である50名の確保をめざす。
- ② 「10×10プラン」の実践内容を積極的に広報する。
- ③ 生徒募集に有効な新たな取り組みを検討する。

<進路実現>

- ① 高校特進系コースとの連携を図りながら、内部進学率80%以上をめざす

VII. 城南学園小学校

1. 基本方針

建学の精神「自主自律（強く正しい）」「清和気品（清くやさしい）」のもと、知・徳・体の調和のとれた円満な人間の育成を目指す。『実践力のある魅力ある人間』を育てるために、3つの柱（柱1—人間としての基礎・基本の徹底「実践力のある魅力ある子づくりをする」、柱2—学力の基礎・基本の徹底「進学校として、実績を上げる」、柱3—学ぶよろこび・活動するよろこびの徹底「明るく、安全、自主性のある学校にする」）をうち立て、徹底していく。さらに、3つの柱をより確かなものとするために、「子どもと教師の距離を縮める」・「体力づくりにこだわる」の2つを実践していく。また、『一人一人がキーパーソン』を合い言葉に、よりよい環境をつくるため、教職員一人一人が積極的に関わっていく。

2. 主たる事業

項 目	目 標	達 成 目 標
<p>① 教育研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員実践度チェック ・教職員研修(学級経営 研修会、授業研究会、一般研修会) ・附属保育園、附属幼稚園、附属中・高校、大阪総合保育大学との連携 ・保護者アンケートによる学校評価 	<p>「実践力のある魅力ある人間」を育てるために、学校経営点検表で毎週の実践を教職員が自己チェックし、子どもたちの実践力の度合いを確認する。また、学級経営研修会、授業研修会、一般研修会により、個人指導の徹底や学級経営における教職員の指導力向上を目指す(授業研究会の回数増)。</p> <p>附属保育園、附属幼稚園、附属中・高校、大阪総合保育大学との連絡会を設け、学校方針等の伝達、内部進学者・実習生についての報告をし、連携を深める。特に附属保育園・附属幼稚園との連携を強化していく(20名の進学者確保のために)。</p> <p>保護者(含受験者)アンケートによる学校評価を実施し、教育活動改善に役立てる。</p>	<p>学校経営点検表によりチェック項目を挙げることで、教職員は自己チェックがしやすく、実践の度合いを確認して子どもたちに当たることができるようにする。また、教職員研修によりそれぞれの実践の交流やより厳しい検討を継続していく。</p> <p>附属保育園、附属幼稚園、附属中・高校、大阪総合保育大学との連絡会を開催し、情報交換に努め、よりよい教育活動に繋げる。また、教員・生徒・学生の交流等、さらに連携を密にしていく。特に附属保育園・附属幼稚園との連携強化のために園児と児童の交流・保護者対応の工夫をしていく。</p> <p>保護者アンケートによる学校評価実施により、保護者の思いを知り、教育活動改善のための参考とする。</p>
<p>② 主たる行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行 ・林間・湖畔学舎 ・運動会 ・総合学習発表会 ・マラソン大会 ・英語校外学習 	<p>一つ一つの行事に一生懸命に取り組ませ、子どもたちの意欲を引き出し、さらに大きく成長できるよう、自主性を重んじる指導を行う。</p>	<p>それぞれの行事において、子どもたちの一生懸命さ・意欲を引き出す工夫をすることにより、成果を上げる。</p>
<p>③ 募集状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集人数 男女70名(含内部) 	<p>2021年度募集では、本校入学を強く希望する入学者数のさらなる増を目指す。</p> <p>出願者80名、入学者60名を目標とする。</p> <p>附属保育園・附属幼稚園からの進学者20名を目標とする。</p>	<p>出願者80名、入学者60名を達成するために外部幼稚園・塾訪問のあり方等、広報活動の改善に取り組む。</p> <p>附属保育園・附属幼稚園からの進学者20名を達成するために連携強化の工夫をしていく。</p>

④ 進路状況	<p>児童一人一人の希望に応じた進路実現のために、個々に合ったきめ細かい指導を行う。</p> <p>難関国立・私立中学校への合格者率を増やす。</p> <p>附属中学校への進学者5名を目標とする。</p>	<p>春夏冬の講習、特別講習、実力テスト、個人データに基づく進路指導、4・5・6年生算数の3段階別指導等の実施により、個々に合ったよりきめ細かい指導を行う。また難関国立・私立中学校への合格者率を増やす。</p> <p>附属中学校への進学者5名を達成するために連携強化の工夫をしていく。</p>
--------	--	--

Ⅷ. 城南学園幼稚園

1. 基本方針

- ① 建学の精神に則し、自分に対して「強く・正しい」人に対して「清く・やさしい」子どもの育成をめざす。
- ② 教育指針「小学校につながる学びの基礎を培う幼児教育 ～豊かな遊びから確かな学びへ～」のもと、遊びを通した総合的な指導の具現化を図る。
- ③ 「からだの力」「ことばの力」「こころの力」を伸ばす。
- ④ 園内の安全管理を徹底するとともに、教職員の資質向上に努める。

2. 主たる事業

項目	目標	達成目標
イ 教育研究活動 ・教職員研修 ・小・保との連携 ・短大・大学との連携	・総合学園の強みとして、各絞種との連携の推進 ・教育指針に基づいた園内研修の充実による保育内容・指導力の向上	・児童・園児の交流の充実 ・実習、インターンシップ、見学受け入れ ・園内研修の実施（月1回程度） ・園内研究（幼小接続期のカリキュラム）の推進（月1回程度） ・夏季園内研修の実施（のべ10コマ） ・園外研修（一人3回程度の参加）
ロ 主たる行事 ・城南夏祭り ・運動会 ・作品展 ・生活発表会	・保護者会との協力体制の強化と、行事等のねらいが保護者に伝わるための工夫・改善	・指導のねらいやプロセスが見えるよう、写真、スライド、たより等で発信する。 ・夏祭りを地元地域へ周知し、招待して『見える化』を図る。 ・行事ごとのアンケートを実施し、その成果を公表することで、協力関係を強化し、子どもたちの成長の明確化を図る。
ハ 募集状況 ・募集人数	・招待保育や園庭開放の充実により、入園児数の安定的な確保 （各歳児80名以上）	・今年度 241名（8名減） ・次年度 250名 新入園児（80名以上） ・未就園2歳児「たんぼぼ」組の開催 昨年度 17名→本園入園、 本年度 15名（令和2年5月現在）

		<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放、「親子広場」の通年実施 ・招待保育の実施 ・体験保育の開催
二 進路状況 ・一人一人に応じた 進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・城南学園小学校 進学者数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度進学状況（85人中） 国立2人 城南15人 私立6人 公立62人 ・城南学園小学校進学 本年度 20人以上/89人中 ・保護者対象の学習参観、説明会継続実施
ホ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実 ・外部評価を活用した学校 評価システムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動を生かした預かり保育の実施 ・「園長室だより」の継続発行 ・HP、Facebook、写真掲示など継続実施 ・行事ごとの保護者アンケートの実施（随時） ・学校評価アンケートの実施（12月） 学校関係者評価委員会の開催（2月） 結果公表（3月）

IX. 城南学園保育園

1. 基本方針

城南学園の建学の精神である『自主自律』『清和気品』にのっとり、城南学園保育園は乳児期からの人との関係性の育ちを基本とし、『身体性の育ち』『精神性の育ち』『ことばの育ち』を大切にします。

- ① 信頼できる大人との出会いの場になるように、子どもの人権を守る。
- ② 愛されているという実感のなかで、のびのびと自分らしさを発揮し、個性豊かに育つようにみまもる。
- ③ 常に本物に触れ、文化的な環境を整え、豊かな感性を育む。
- ④ 自然の恵みの中で、養護と教育が一体となり、さまざまな体験を通して生きる喜びを育む。
- ⑤ 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを大切にする心を育む。
- ⑥ 地域の人たちとのふれあいを通して分かち合いの心を育む。
- ⑦ 保育士の専門性を生かし、保護者支援、地域の子育て支援に貢献する。

2. 保育目標

言葉の力の獲得	気持ちを伝え理解する、言葉の土台をつくります。
遊びこむ力の獲得	遊びを通じて、夢中になって探求する好奇心と集中力を育みます。
生活技能の獲得	乳幼児期の成長過程を、やさしく見守り育みます。
人と関わる力の獲得	一人ひとりの違いを認め、お互いを大切にする心を育みます。

3. 主たる事業

項 目	目 標	達 成 目 標
イ 教育研究活動 ・教職員研修 ・小・幼との連携 ・高校・短大・大学との連携	・各校種との連携の推進 ・保育所保育指針の改定に伴い、園内研修を充実させ、保育内容、指導力の向上をはかる。	・小・幼との園児の交流 ・実習、インターンシップ、見学の受け入れ ・大学との交流 ・園内研修の実施 ・園外研修(1人2回以上参加)
ロ 主たる行事 ・縁日祭り(7月) ・親子ふれあいフェスティバル(10月) ・クリスマス会(12月)	・親子で参加することにより、保育園での生活を理解する機会とする。 ・短大、大学の学生との交流をはかる。	・行事のねらい、取り組みの過程をおたより等で発信する。 ・参加した保護者の感想、意見をまとめ、協力関係を強化する。
ハ その他	・保育・給食参観の実施 ・子育て支援の充実 子育て広場“はっぴー” ・城南ホーム訪問	・保育園の生活の様子を知り、食育について発信する機会とする。 ・市、区の子育て支援機関との連携をはかる。 ・短大、大学の専門分野の教員との連携をはかる。 ・写真掲示によって、保育園での子どもたちの様子をよりわかりやすく伝えられるようにする。

◇募集定員 * () 内は、令和2年5月1日現在の在籍者数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員(人)	9	12	12	13	13	13	72
	(9)	(12)	(12)	(13)	(8)	(8)	(62)